

2011/8

## リサーチ

No.114

通巻  
171

平成23年8月1日

発行者  
北海道公民館協会  
会長 松藤 藤吉  
〒060-0002 札幌市中央区北2西7  
かでる2・7 (9F)  
道立生涯学習推進センター内  
011(271)2825

大震災からの復興  
井上ひさしと宮沢賢治の「廣場」

北海道公民館協会会長 松藤 藤吉  
(中富良野町教育長)

彼が、その宮沢賢治を主人公に書いた作品「イーハトーボの劇列車」は、父との葛藤、ふるさとや農民への思いなど、賢治の心象をテーマに描いた傑作です。

日々復興に取り組む被災者やがれきを取り除く人々の姿は、そのまま「農村に『廣場』を！」と祈った賢治の生涯に重なってみえます。

今、賢治の思いは、確かに引き継がれているのだと、しみじみと感じているところです。

この度の東日本大震災で、犠牲となられた方、被災された方に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、復興に向けて一体となつて支援を誓いたいと思います。

被災地からの報道で、被害の規模にあらためて驚くとともに、その中から復興に立ち上がる被災者の皆さんや、それを支える人々の姿を見て大きな希望を感じています。

宮沢賢治は日本を代表する詩人として、東北・花巻の詩人として知られていますが、その誕生の年（一八九六年）と最期の年（一九三三年）はともに、三陸地震と津波に襲われた年でのことです。

生涯、被害や気候、東北の風土を憂慮し続けた宮沢賢治の作風に深い暗合を感じるところです。

同じく東北出身の劇作家に井上ひさしがいます。

列車の中には、賢治が創作した童話の登場人物、動物たち、東北の農民や家出娘たちなどが乗り合わせ、夢と現実を織り交ぜて劇列車は進みます。劇中、主人公賢治は、悲惨な東北の現状を憂えて、「『廣場』があればなあ。村の人びとが祭りをしたり談合をぶつたり、神楽や鹿踊りを楽しんだり、とにかく村の中心になる『廣場』があればどんなにいいかしれやしない。」

と思い残した気持ちを語らせます。それは、ふるさと東北と人々を思い続けた賢治の絶唱でした。

その言葉をうけて、列車の車掌は、「あなたの思いをまたきっとだれかがひきつぐんじゃないかしら。」とつないで、この劇はとじます。

日々復興に取り組む被災者やがれきを取り除く人々の姿は、そのまま「農村に『廣場』を！」と祈った賢治の生涯に重なってみえます。

今、賢治の思いは、確かに引き継がれているのだと、しみじみと感じているところです。

ひるがえって、私たちの取り組んでいる公民館は、賢治が言う「廣場」そのものではないか、公民館は人々が祭り、談合し、鹿踊りを楽しむ「廣場」ではなかつたか。

そして、私たちも、公民館を通じて「廣場」の再生と東北の復興に参加しているのだとの思いを新たにしています。

宮沢賢治は日本を代表する詩人として、東北・花巻の詩人として知られていますが、その誕生の年（一八九六年）と最期の年（一九三三年）はともに、三陸地震と津波に襲われた年でのことです。

生涯、被害や気候、東北の風土を憂慮し続けた宮沢賢治の作風に深い暗合を感じるところです。

同じく東北出身の劇作家に井上ひさしがいます。

思い出した気持ちは語らせます。それは、ふるさと東北と人々を思い続けた賢治の絶唱でした。

その言葉をうけて、列車の車掌は、「あなたの思いをまたきっとだれかがひきつぐんじゃないかしら。」とつないで、この劇はとじます。

社団法人全国公民館連合会  
会長 鹿熊 久三



## 「誰のために、誰が動くか」

平成23年8月1日 道公協広報(第114号)

今年の三月十一日に発生した東日本大震災は、我が国の観測史上最大規模の地震となり、それによつて引き起こされた大津波の被害も広範囲に及び、言語を絶する大惨事となりました。北海道でも多数の浸水被害等があつたと聞いております。亡くなられた方々や被災された多くの方々に対し、衷心より哀悼の意を表しますと共に、全公連として、お見舞いを申し上げたところです。

テレビや新聞は日を経るに従つて、被害の甚大さや悲惨な状況を連日詳細に伝えました。我々の仲間である公民館も全半壊や流出等で大きな痛手を受けています。そのような中で避難所として昼夜を分かたずの救援活動を展開すると共に、地域住民と一緒にになつて厳しい避難所生活を運営を目的の当たりにすると、公民館活動の実践を通して共助の精神が醸成できていることが、これほどまでに

人々の《力》を輝かせるのかと、力強く、頼もしく感じ、公民館の役割の大切さを再確認いたしました。

本会では今回の震災に際して理事とスタッフが実際に被災地に赴き、その取材をもとに『月刊公民館』の六月号と七月号で震災をテーマに特集を掲載しました。また、八月二十日に内閣府と共に「公民館における災害対策特別研修会」を実施いたします。あわせて「公民館における災害対策ハンドブック～よりよい避難所の運営のために～」の改訂版を刊行します。秋に行う第三十三回全国公民館研究集会（佐賀大会）では岩手県の公民館長及び館長補佐とともに「いま問われる 地域の力と公民館」と題して「鼎談」を緊急企画しました。このことについては佐賀県の関係者の柔軟な対応に感謝をしています。またかねてより動いていた「公民館海援隊」でも応援に駆けつけた公民館職員の報告等もあり多くの議論が交わされています。（公民館海援隊）は月刊公民館八月号で特集します

人々の《力》を輝かせるのかと、力強く、頼もしく感じ、公民館の役割の大切さを再確認いたしました。

キッズ夏季林間学校」があります。これは有志によつて「福島の子どもたちの笑顔と元気応援プログラム」として企画されていて、「夏休みは、なんの心配もなく、思いっきり『子どもをやつてもらう』」を掲げて実施されています。関係者の言葉に「このプロジェクトは福祉ではなく教育である」という言葉があります。学校そのものでは対応しきれない事態に大人たちが集い、考え、実行していく。これこそが社会教育の基本形である「地域社会の課題を自ら解決していく」ことではないでしょうか。

北海道公民館協会もこの活動の支援をしていますが、関わっている自治体のみなさまもそれを理解しているからこそ全面的な協力体制を敷けているのだと考えます。これらの取り組みに衷心より敬意を表します。

さて、過去の震災でも問題となつた「仮設住宅等での孤独死」が今回も発生しています。地域がしっかりと機能していれば、これらはある程度防止することはできます。しかし、今回のように人々の生活の基盤を根こそぎ奪い去つてしまふような場合、十分な地域社会を継続することは不可能なことです。しかし「地域社会」が一時的に消滅しても「地域社会力」を醸成しておけば、その厳しく困難な状況でも新たなコミュニティを作り、健全に運営していくことが望めます。孤独死も、それらの取り組みによって防ぐことができるのではないでしょうか。地域社会のあり方や人ととの関わりの深浅は、このように生死に関わる重大な問題にまで深く関わつてくるのです。公民館活動は人々の学習の要求を満たすと共に、人としてのあり方まで感化する場となります。それこそがまさに「福祉ではなく教育」であり、その役割は社会教育にあり、公民館が担つているのです。

## 平成二十二年度定期総会報告

去る四月二十六日、札幌市かかる2・7において、平成二十三年度定期総会を開催いたしました。

来賓として北海道教育厅生涯学習推進局長 岸 豊氏のご臨席を賜り、祝辞をいただきました。総会議長には豊浦町教育委員会の橋田課長を選出し、審議では、報告事項三件、議案四件を提案いたしました。

昨年度は、公民館職員の研修機会の充実と資質向上を図るために、「全道公民館職員研修会」を初めて開催し、全道から四三名の参加をいたきました。また、今年度道公協が六十周年を迎えるために、本道公民館の六十年間の歩みをまとめた記念誌を発行するため編集委員会を設置しました。平成二十三年度は、創立六十周年記念事業として、北海道公民館大会を札幌市において十月六日～七日に記念大会としてまた、大会には多くの方の参加を期待いたします。

### 報告事項の概要

報告第一号では、「平成二十二年度事業報告」をいたしました。



第五十四回北海道公民館大会兼全国公民館連合会北海道ブロック大会は根室市で開催し、百五十名の参加がありました。開会行事に引き続き、鈴木文部科学副大臣のビデオメッセージがあり、その後、和歌山大学の出口教授による基調講演がありました。その後、教育支援協会の吉田代表理事より「北海道の公民館が忘れてきたモノ」と題して講演があり、続いて「各職員が、各委員が、求められていること」というテーマでパネルディスカッションを四名のパネリストを迎えて実施いたしました。



二日目には、五分科会で「私の街の公民館（社会教育）は！」のテーマでグループワークを実施し、最後に度事業報告」をいたしました。

全体会においてまとめを行いました。

また、公民館職員の資質向上を図るために、新規事業として全道規模の「職員研修会」を開催しました。道公協では、過去にブロック体制による研修会等を開催していましたが、平成十八年度以降開催していませんでした。しかし、加盟公民館より研修会の必要性の声があり、「変えよう！あなたが変える これからの公民館」をテーマに開催しました。今後も、公民館職員として必要な知識・技能を身につけ、実践に役立つ研修会をめざして行きます。

### 【議案の概要】

報告第二号では「決算報告」を、第三号では「監査報告」を行い、全て提案どおり承認されました。

議案第一号「平成二十三年度活動方針（案）」、議案第二号「事業計画（案）」では、本年度は、道公民館協会が設立され六十年の記念すべき年であります。六十周年を迎えるに当たり、今一度、公民館の原点に立ち返り、地域の活性化という本来の目的に向かって、北海道の公民館が一体となり活動をする必要があります。

このため、本年度の第五十五回北海道公民館大会兼全国公民館連合会である2・7を会場に、協会六十周年記念事業と位置づけをして開催いたしますので、多くの関係者の参加をお願いいたします。

また、職員のスキルアップをめざしての職員研修は、熟議を中心に行催しますが、全公連でも今年度は「熟議」を研修会の重要な事項と位置

ればならない使命があります。また、次代の変化に応じて、関係職員・委員が変化していくかなければならぬことがあります。そのためには、大会や研修会で得たことを生かしながら、今後の公民館活動に役立ててください。

付けていますので、各支部においても、熟議の取り組みをお願いします。さらに、平成二十五年度には、全国公民館研究集会の開催地当番が北海道となり、富良野市で開催することとなりました。今後、開催に向けて、実行委員会を組織し、準備を進めています。

議案第三号「収支予算（案）」の一般会計・特別会計予算は、提案どおり承認されました。

議案第四号では役員改選について審議し、松藤会長以下別記のとおり承認されました。

### 全道公民館職員研修会終了

「全道公民館職員研修会」が、七月七日～八日にかかる2・7で開催され、「変えよう！あなたが変えるこれから」の公民館をテーマに、全道の公民館関係者三十七名が参加し、熱心に研修しました。



ふるさと再生塾  
塾長 小山忠弘 氏  
・パネリスト  
国立教育政策研究所教育課程研究センター長 神代 浩 氏  
前秋田市中央公民館  
事務局次長 村上英巳 氏  
NPO法人教育支援協会  
代表理事 吉田博彦 氏  
「官のサービスに民が積極的にかかわり、社会全体で支援を行うこと」＝「新しい公共」と捉える。



・民の力の大きさを把握、または再認識するべき。  
「新しい公共」を理解する際、これまでと比べて全く新しいものに改善されることではなく、従来の機能にプラスして考える方が良い。政治が限界の社会で個々の価値観が多様化し、それぞれがサービスのタイミングを待てない状況が増えていく。行政だけでサービスを行うことが難しくなっている。  
地域課題に積極的に関わるのは公民館しかいない。結局他の部局では難しい面が多い。  
特に災害時に最も必要なのは、「備蓄」ではなく「人間関係の形成」である。



次の研修では、吉田博彦氏を講師に「熟議」を、手法を学びながら体験しました。初めて「熟議」という言葉を聞く方もいましたが、参加者は熱心にワークショップ研修に参加していました。テーマは「新しい公共と社会教育」で、①地域が抱える課題、「新しい公共」のイメージなどを列挙し、それぞれの意見をグループ内で述べ、思いの共有を図りながら、②課題に対しての策を列挙し、それぞれの考えを意見交換し、グループとしての方向性をまとめ、最後に③グループごとに発表し、会場全体での共有を図りました。

・手法としては、KJ法によく似た手法で、付箋紙を使って模造紙に

貼り出していきました。  
貼り出した付箋を類似するものごとに集めていき、多くの意見を引き出すためには、各グループのファシリテーターの質が求められるものです。

## 熟議の注意点

- 1.【発言する前に】  
資料やほかの人の発言をよく読んで理解する。
- 2.【発言する時に】  
毎回、挨拶からはじめる。
- 3.【発言する時に】  
簡潔に、分かりやすく伝える。
- 4.【発言する時に】  
人を傷つけない発言を心がける。
- 5.【議論の途中で】  
共感や感想、考えの変化などを伝える。  
⇒人と人の共感の関係づけ

二日目は、初めに道教委生涯学習課浜中主査より、  
①子どもたちの「土曜日の過ごし方」  
に関する実態や意識についての調査結果について  
②新年度（平成二十三年度）北海道教育長が提出した教育行政執行方針についての説明  
特に、「公民館等を中心とした社会教育の資源を十分に活かして、地域の活性化を担う人材を育成することが重要であります。」の部

分が新しく盛り込まれた点

（印刷物）を切り貼りして、架空の

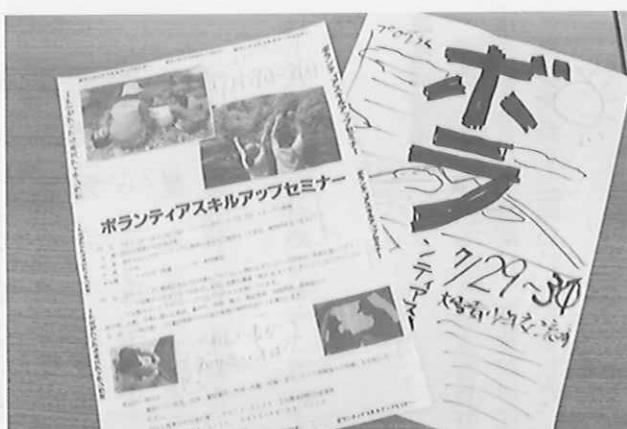
③国で制度化された「スポーツ基本法」の概要について。国を挙げて

スポーツをこれまで以上に推進、

体制化していく内容

の情報提供がありました。

（印刷物）を切り貼りして、架空の事業のチラシを個々に実際に作成するワークを行いました。  
前半で学習した内容を踏まえて、どうすれば「見てもらえるか」、「参加したくなるか」などを意識しながら、参加者それぞれが個性的なチラシを作成しました。



このあと、富良野市教委社会教育係長の上野和広氏を講師に、「役に立つチラシづくり」のワークショップを行いました。

チラシ広報紙は地域とのコミュニケーションツールの一つであることから、前半はチラシを作る際の注意点や、効果を生むためのポイントについて講義がありました。後半は、用意されたチラシを作成する素材

### 全国公民館連合会通常総会

鹿熊会長の挨拶で、今回の東日本大震災に対し、地域コミュニティの再生には公民館が大事な役割を果たすので、仮設住宅地区に仮設公民館ができれば良いと話されました。

また、文部科学省生涯学習政策局の板東社会教育課長が来賓として出席し、社会教育・生涯学習に関する最近の動向について、地方公共団体における社会教育費は、学校教育費を削減できないため、社会教育費が年々減少傾向にある。また、社会教育主事、公民館職員数も減少しており、コミュニティ再構築のために、積極的に施策を打ち出すことが社会教育振興の課題である。さらに、

「熟議」への取り組みについて、熟議は様々な現場で当事者が話し合い、共通理解を図るために、文科省もサポートをするので、積極的に推進願う、等について説明がありました。議事はすべて承認されましたが、平成二十四年四月一日から、全公益社団法人化に向けて内閣府へ申請を行うとの事でした。

## 新副会長の横顔

道央ブロック 早瀬 良樹

(寿都町教育委員会 教育長)



公民館活動が低下了した感がある今だからこそ公民館活動のネットワークに微力ではありますが積極的に参加する所存です。

### 道東ブロック

菊地 美鈴

(網走市教育委員会 社会教育次長)

網走支部長として平成二十三年度の北海道公民館協会副会長となりました菊地です。公民館協会の高齢者書道展やママさん美術展、おかあさんコラス交歓会が全道を巡回していましたところも知っています。網走市ではおかあさんコラス時代からの女声合唱団も活躍し



絵画グループも健在ですよ。みんなの公民館と繋がってまちの元気を応援していきましょう。よろしくお願いします。

### 全国優良職員表彰

泉 泰仁氏 (苦前町)

在ですよ。みなさんの公民館と繋がってまちの元気を応援していきましょう。よろしくお願いします。

### 全国永年勤続職員表彰

宮前伸之 (苦前町)

（一）講演 演題 「新しい公共に向けた社会教育政策」

### 道南ブロック

安井 雅一

(壮瞥町教育委員会 生涯学習課長)

平成二十四年度の全道公民館大会

の開催と住民の生涯学習の一助となる様、微力ながら頑張りますので宜しくお願ひ致します。



### 道北ブロック

北川 雅一

(上富良野町教育委員会教育長)

生涯学習と地域

（コミュニティ活動の拠点として、「公民館」により多くの方々が集い、ふれあい、人の輪を広げられますように取り組んでまいります。

「北海道における公民館活動の果たす役割とは」

### 一、テーマ

（三）グループ熟議 テーマ

「新しい公共と社会教育」

コーディネーター

NPO法人教育支援協会代

## ◇全国公民館連合会表彰

七日（金）  
三、会場

北海道立道民活動センター（かでる2・7）【札幌市中央区北二条西七丁目】

### 四、内容

### 上川支部

石川仁司氏（士別市）

植西信雄氏（士別市）

講師 文部科学省生涯学習政策局

熊沢秀治氏（士別市）

浦坂一彦氏（士別市）

社会教育課長 塩見みづ枝氏  
（二）パネルディスカッション

平齊藤隆之氏（士別市）

喜久枝氏（士別市）

テーマ  
「新しい公共と社会教育」

以上八名の皆様おめでとうございます。

コーディネーター  
NPO法人教育支援協会代表

吉田博彦氏

### 事務局連絡

平成二十三年度も引き続き富良野市教育委員会教育部長 遠藤和章氏に事務局長をお願いいたしました。

文部科学省広報官 杉浦久弘氏  
和歌山大学生生涯学習教育研究センター  
センター長・教授 出口寿久氏  
文部科学省生涯学習政策局社会教育課長 塩見みづ枝氏  
毎日新聞社論説副委員長

北海道公民館協会創立60周年記念事業  
平成23年度 第55回北海道公民館大会

（二）グループ熟議 テーマ  
「新しい公共と社会教育」

コーディネーター

NPO法人教育支援協会代

# 東日本大震災復興支援—水と土の芸術祭「PLAY」— 松浜地区心意氣ARTフェスタ

新潟市北地区公民館

館長 佐藤 晴夫



日 時 9月4日(日)～9月18日(日) 9:00～17:00

会 場 新潟市北区松浜本町商店街界隈(参加作家47人)

イベント 野外展示15箇所 屋内展示5箇所

チャリティーオークション(売り上げの全額を義援金に)

まちなかARTパフォーマンス 震災復興シンポジウム

9月4日(日)10:00 オープニング・セレモニー

## 新潟市の被災地支援状況

三月十一日、日本の観測史上最大のマグニチュード九を記録した東日本大震災が発生しました。これに対して、仙台市と災害時の相互支援協定を締結していた新潟市の動きは迅速でした。翌日の未明には、災害派遣医療チームが仙台市を目指していました。大震災の発生以来、新潟市では、二千三百人以上の職員を仙台市の避難所等の支援に派遣しています。私自身は、三月二十二日から二泊三日で、仙台市の太白区の避難所の支援に行ってきました。水道、ガスが止まっています。四十人ほどの方の避難者の食料配給、トイレ用の水汲み作業、避難所の掃除、それと暖

市に派遣していま  
す。私自身は、三月二十二日から二泊三日で、仙台市の太白区の避難所の支援に行ってきました。水道、ガスが止まっています。四十人ほどの方の避難者の食料配給、トイレ用の水汲み作業、避難所の掃除、それと暖



房のための石油ストーブの燃料補給と余震の際の消火が主な支援活動でした。強い余震が頻繁にあり、石油ストーブの消火と寒さでほとんど睡眠が取れませんでした。当然のことながら、避難者も同じです。

新潟市では、三月十八日、最初の

避難所が開設されました。その後、四ヶ所の避難所が開設され、ピーケ時には、全体で一千百人以上の皆さんが避難されていました。大震災発生から一〇〇日以上経った六月末現在で一五一人、六十八世帯が避難生活を余儀なくしています。当北地区公民館が所在する北区では、三十三人、二十世帯が総合体育館で避難生活を続けています。

## 避難者は地域コミュニティの一員

未曾有の大震災が発生してから三ヶ月以上が経ちました。例えば、当地区的体育館で集団生活を続ける避難者の皆さん的生活ぶりは、いかばかりかと考えざるを得ません。一般市民は避難所に許可なく立ち入ることでできず、隔離生活を送っているような印象があります。この中で、地域との日常的なつながりや地域行事への参加は、ほとんど皆無といつていいのではあります。ここで、地域との日常的なつながりや地域避難者の皆さんのがんばりや地域生活と同様に捉え、避難生活を地域が解決すべき地域課題として設定しました。それは地域コミュニティの一員として生活が送れるよう環境を整えることでした。そのため、大震災を共有すること、避難者の皆さんとの地域参加を目的に四事業を中心とした立ち上げました。ここで、その

『ARTフェスタ』をご紹介しましょう。

### 松浜地区心意氣ARTフェスタ

ARTフェスタの開催目的は、ただ一つ、壊滅的な被害を受けた被災地へ支援金を送ることです。そのため新潟県内を主体とした県内外のアーティストがネットワークを生かして、新潟市北区松浜に結集します。

作品の自主搬入・自主搬出、チャリティー用の作品の無償提供によって心意氣ARTフェスタは開催され、報酬は一切ありません。これを松浜地区の地元住民が支え、共に開催します。野外、屋内展示のための空地、空き店舗借用に、自治会長さんや地元自治振興会などが懸命に働きかけてくれました。商店街も同じです。



参加作家が被災地を取材した写真の一コマ

地元説明会には一〇〇人ほどの地域元自治振興会などが懸命に働きかけ、松浜地区の活性化に避難者を生かすが心意氣ARTフェスタの願いです。これが心意氣ARTフェスタの道標を希望とし、ここに参加するすべての人々が心一つにします。これが心意氣ARTフェスタ応援隊

いまのところ、ARTフェスタの準備は順調に進んでいるように見えます。しかし、実際はここからが正念場といえます。例えば、地元では、現代美術を主体としたアーティストが華麗に舞うような印象で話が先行し、実態がつかめていないようです。作品設置の応援、開催期間中の受付係、そして何よりも多くの見学者が松浜を訪れます。問題はこうした人々への対応です。かつ、商店街の賑わいを地域活性化のために、演出していくかなければならないでしょう。

今のところ、商店街の皆さん、ARTフェスタに対応した新たな動きをつくり出す動きを見せていません。

の皆さんのが参加して地元の議員さんや各団体から激励の言葉をいただくなど、説明会は大いに盛り上がりました。今回のARTフェスタの開催趣旨に次の二文を載せました。「全てを奪つたような東日本大震災。しかし、唯一奪えなかつたものが人々のふるさとへの深い愛着とそこに生きた人々の強い絆でした。それを生きる力とし、復興の道標とした人々。そうした姿と共に『松浜地区心意氣ARTフェスタ』です。その道標を希望とし、ここに参加するすべての人々が心一つにします」。これが心意氣ARTフェスタの願いです。

松浜地区の活性化に避難者を生かすが心意氣ARTフェスタの願いです。これが心意氣ARTフェスタの道標を希望とし、ここに参加するすべての人々が心一つにします。これが心意氣ARTフェスタ応援隊

いまのところ、ARTフェスタの準備は順調に進んでいるように見えます。しかし、実際はここからが正念場といえます。例えば、地元では、現代美術を主体としたアーティストが華麗に舞うような印象で話が先行し、実態がつかめていないようです。作品設置の応援、開催期間中の受付係、そして何よりも多くの見学者が松浜を訪れます。問題はこうした人々への対応です。かつ、商店街の賑わいを地域活性化のために、演出していくかなければならないでしょう。

今のところ、商店街の皆さん、ARTフェスタに対応した新たな動きをつくり出す動きを見せていません。

心意氣ARTフェスタは、多彩な

松浜地域の特徴は、際立つて伝統的な地域運営が目立ち、今日的な課題に対応するシステムや装置が見出せません。そこで、伝統的な地域運営に支えられた地域創造的な市民グループを結成したいと考えました。それが『心意氣ARTフェスタ応援隊』です。ここに避難者の皆さんから参加していただく計画でいます。

新潟市、北区、松浜地区を学び、地域の一員となつて、地域住民と共に松浜地区の明日を考え、松浜地区に賑わいを演出し、同時に、大震災の困難さが共有できればと考えています。さらに、心意氣ARTフェスタのオープニング・セレモニーでは、作家の一人は、被災地を取材し、それを映像化しました。この作品と運動させながら、竹を素材にモンゴルのゲル風のシェルターを地元小学生と一緒に作り、そこで大震災をテーマにワクショップを開催します。また、復興シンポジウムでは、ツイッターワークショップを展開します。また、復興シンポジウムでは、ツイッターワークshopの寵児・津田大介さんをお招きし、地元作家たちと復興をテーマに、あらたな社会参加システムを論議します。この状況は、インターネットを通じて配信する予定です。是非、北海道の皆さんからもご覧いただきたいと思います。

最後に、新潟市北区松浜地区は、粹で頑固で人情豊かで面白い地域です。是非、一度お越しください。お待ちしています。



日本一の水量を誇る阿賀野川から松浜地区を望む

## 被災者を受け入れて

福島県会津坂下町川西公民館

生涯学習推進員 佐藤 浩

「白虎隊」で有名な会津若松市より新潟方面へ車で二十分のところに、わが会津坂下（ばんげ）町は位置しています。人口一万八千人弱で、公民館は中央公民館と七つの地区公民館があります。

その中でわが川西（かわにし）地区は、世帯数約三二〇戸、人口千百人程度で、会津盆地の低地に位置し肥沃な水田地帯と畑作地帯、山林・原野を有する自然豊かな土地柄で公共施設や温泉施設が多く、上宇内薬師堂、陣が峯城跡などの史跡に恵まれ、他に誇れる文化と歴史を有した地区です。

しかし、少子高齢化が進み平成十九年三月には小学校・幼稚園が閉校・閉園になりました。

このような所に立地している公民館です。平成二十三年三月十一日（金）午後二時四十六分突然今まで感じたことがない長く大きな揺れを感じました。『東日本大震災』です。

幸い我が地区は、土蔵やブロック塀に被害があつた程度で人的被害はありませんでした。ところが、福島第一原発（川西地

区から百km以上離れている）では津波による被害でトテツモナイ事になつていました。

三月十五日（火）午前、町役場より突然一本の電話がありました。

内容は、「本日午後三時頃に原発事故で被災された人たちを川西公民館で受け入れますのでよろしくお願ひします。約三百人」とのこと。

私はどうしたら良いのか一瞬頭の中が真っ白くなつた記憶しか、今は思い出せません。



布等の寝具が三百枚以上夕方までに揃える事ができました。

また、高齢者や小さいお子さんのいる家族は、公民館の和室に入つていただきました。食事に関しましては、四月より供用する予定だった学校給食センターが公民館の隣に二月に完成していただきセントラル長の咄嗟の機転で避難の人たちに温かい食事を提供することができました。あの日から今まで三ヶ月いろんな事がありました。

まず、NPO法人のNIVOを中心ボランティアセンターが立ち上がりすぐさま活動を開始しました。

あの日から今まで三ヶ月いろんな事がありました。



右の写真は、避難の子どもたちに読み聞かせをしている様子です。

また、理容組合やマッサージ屋さん・芋煮の焼き出し・バーベキュー

など様々なボランティアの人たちが毎日のように来て活動していました。今では、二次避難で殆どの人は、旅館や宿泊施設に移動して公民館には数名しかいませんが、葛尾村の災害対策本部の職員数十名は常時滞在しています。

・川西公民館には、グランドゴルフ愛好会があります。先日、葛尾村の方が「この地区ではグランドゴルフなどのクラブありますか?」と尋ねられ、私は、(これだ)と川西愛好会と葛尾クラブとの交流を深めようと思い早速近くの温泉で懇親会を開き話が盛り上がり、合同でのミニ大会を開催することになりました。後日、川西愛好会から十四名葛尾クラブから六名参加し総勢二十名でございました。



右の写真は、見事優勝した葛尾クラブの松本和典さんです。何と八十

ウン歳です。八月のお盆頃までは、仮設住宅に移動してしまうとのことで、その前にもう一度ミニ大会を開催しようと思っています。最後に『東日本大震災』を経験してしまった私たちは原発事故というトテツモナイ怪物とまだ戦つていかななければなりません。私たちもいつ避難者になるか分かりません。知れに加え、福島県に対する風評被害も収束する気配すら見えませんしかし、私たちは元気に明るく前向きに生きていきます。

**【がんばっ・福島】**

築しました。

「いつでもどこでもだれでもいつまでも」学ぶことができる、生涯学習活動施設として喜ばれており、町民の方々の様々なニーズに応えるための取組みを行っています。さらには、各種会議や研修会、サークル活動、各種交流会等にも活用されています。

## ○和寒町公民館の活動紹介

○公民館講座  
楽しいフラダンス体験教室



## 効果

教室には約二十名の参加があり、講座をきっかけにフラダンスサークルが発足するなど、生涯学習の足がかりとなつた。

## ○芸術鑑賞事業

NHK交響楽団トップメンバーによる室内楽の名曲コンサート

## ○町民文化祭

例年十月下旬～十一月上旬の期間に文化団体連絡協議会と連携し実施している。

作品展示では延べ四〇〇点を超える各種サークルの力作（写真・陶芸・菊花・盆栽・生花等）が展示されています。さらには芸能発表会でも保育所のお遊戯、サークルによる芸能発表（ピアノ・舞踊・詩吟・大正琴・和太鼓・合唱等）も行われ、自然の恵み野わっさむに香り高い文化と豊かな心を育んでいる。

### 作品展示：菊花展



### 芸能発表



和寒町では、社会教育推進の中心的施設として、平成十二年に現在の和寒町公民館「恵み野ホール」を建

和寒町では、社会教育推進の中心的施設として、平成十二年に現在の和寒町公民館「恵み野ホール」を建

和寒町では、社会教育推進の中心的施設として、平成十二年に現在の和寒町公民館「恵み野ホール」を建

和寒町では、社会教育推進の中心的施設として、平成十二年に現在の和寒町公民館「恵み野ホール」を建

和寒町では、社会教育推進の中心的施設として、平成十二年に現在の和寒町公民館「恵み野ホール」を建

## 効果

住民に優れたプロの演奏を聴いてもらい、音楽の楽しさや奥深さを味わうことができ、住民の文化活動に対する意識の高揚を図ることができました。

## 『生涯学習の推進』

### ～公民館講座を通して～

真狩村公民館長 飯田 憲司

#### I はじめに

##### 1、真狩村の概要

真狩村は、後志管内、羊蹄山の南麓に位置する人口二、二〇〇人の純農村である。基幹産業の農業では、畑作四品や特産であるユリ根の栽培をはじめとして、近年は野菜や花卉の栽培も多岐にわたり行われている。

村では、平成二十三年度から向こう十年間の第五次総合計画を策定し、「笑顔咲くふれあいの村 まつかり」をテーマに村づくりを進めていくところである。

事業、行事、講座、教室の開催、各団体の活動に供している。

また、隣接する真狩高校（村立高校）とは、渡り廊下で結ばれ、地域住民の高校利用、高校生の公民館利用による相互利用が図られ、施設連携と人的な連携が行われている。

ホットな話題として平成二十三年六月に村の職員の結婚祝賀会が十五年ぶりに公民館で開催されたところである。

#### II 活動内容

##### 1、「公民館講座」生涯学習に関する各種講座の開催

(1) 生涯学習会の活性化に向けての取り組み

村では生涯学習の振興を図るべく、昭和五十年代前半から後半にかけて、村内を大きく八つに分けて各地区で生涯

学習会が組織され、その推進

が図られてきている。

##### 2、真狩村公民館の状況

現在の公民館は、昭和五十五年十月に移転新築され、各種の

目的、趣旨に沿った活動をする中で、一定の役割を果してきており、地域・地区的生涯教育・生涯学習の取り組み、あるいは、地域コミュニティの醸成を進める上においても、今後とも、大きな力になつていくものと考えている。

ただ、ここ数年、少子高齢化等により活動の停滞化、毎年同じような活動内容、事業によるマンネリ化といったことが指摘されており、この活性化を図ることが一つの課題として捉えている。

ここ数年、公民館講座を開設し、活性化に向けてのきっかけづくりになればという思いもこめて、この講座を開設してきている。

区生涯教育振興会・学習会の活性化へ

オ、まつかりマイスター（人材バンク）の活用と

将来的な指導者の発掘・育成

(2) 平成二十二年度公民館講座の推進方針

(1) 平成二十二年度公民館講座の推進方針

ア、個人の学習意欲を引き出す魅力ある講座の開催

(少人数制)

イ、年六回（二ヶ月に一回）の開催による公民館利用の活性化

ウ、「食」をキーワードに

した講座の開催

エ、個人の活性化から各地

カ、食の講座





- ③ 効果と課題
- 1、効果
    - ・人の輪づくり、人と人とのつながりの広がりを感じる。
    - ・高校生の参加もあり（食育講座）、今後が楽しみである。
    - ・少人数の体験方式により、集中して参加者が講座を受講。
    - ・幅広い内容での講座で今まで参加しなかつた新しい参加者の増加。



- III 今後に向けて
- 1、地域の生涯学習拠点として、公民館はその役割の一端を担うものであり、個人の要望と社会の要請にこたえることが指摘され、住民のニーズによる要求課題に関する事業だけでなく、地域課題、生活課題等の社会の要請に関する講座の開設などが求められていると感じている。

2、課題

地域の生涯学習拠点として、公民館はその役割の一端を担うものであり、個人の要望と社会の要請にこたえることが指摘され、住民のニーズによる要求課題に関する事業だけでなく、地域課題、生活課題等の社会の要請に関する講座の開設などが求められていると感じている。

- ④ 平成二十三年度の公民館講座の推進方針
- ア、個人の学習意欲を引き出す魅力ある講座の開催（少人数制の継続）
  - ・消化型事業から継続型事業への転換
- イ、年六回（二ヶ月に一回）の開催による公民館利用の活性化

ウ、個人の活性化から各地区生涯教育振興会の活性化へ（生涯学習のリーダーへ）

エ、まつかりマイスター（人材バンク）の活用と将来的な指導者の発掘・育成

オ、他の関係機関との連携事業の推進

その観点をふまえつつ、各地区の生涯学習会の活性化への取り組みの一助・きっかけとなるよう、その目標実現にむけて、公民館講座の更なる事業展開に向けて取り組んでいくたい。

より一層、充実した講座が開催できるよう、講座内容の創意工夫、PR活動に努めていくとともに、併せて、元気な公民館づくり、元気な地域づくりに資していかねばと考える。



## 平成23年度 北海道公民館協会役員一覧

役職	支部	氏名	市町村名	職名	役職	支部	氏名	市町村名	職名
会長	上川	松藤 藤吉	中富良野町	教育長	常任理事	網走	菊地 美鈴	網走市	社会教育次長
副会長	上川	北川 雅一	上富良野町	教育長	常任理事	釧根	岡部 義孝	釧路市	生涯学習課長
副会長	後志	早瀬 良樹	寿都町	教育長	理事	胆振	東 龍一	安平町	教育次長
副会長	胆振	安井 雅一	壯瞥町	生涯学習課長	理事	上川	大滝 憲孝	美瑛町	公民館館長
副会長	網走	菊地 美鈴	網走市	社会教育次長	理事	網走	今西輝代教	置戸町	社会教育課長
常任理事	上川	柏谷 茂	名寄市	中央公民館館長	理事	釧根	斎藤 博昭	白糠町	社会教育課長
常任理事	渡島	杉原 太	七飯町	生涯学習課長	監事	後志	矢吹 俊男	俱知安町	公民館館長
常任理事	胆振	相澤 潔	苦小牧市	勇払公民館館長	監事	上川	福田 学	旭川市	公民館事業課長

## 平成23年度 北海道公民館協会支部事務局所在地

支部	郵便番号	所在地	名称	電話番号
後志	048-0405	寿都町開進187-1	寿都町教育委員会	0136-62-2100
胆振	059-1372	苦小牧市勇払33	苦小牧市勇払公民館	0144-56-0003
渡島	041-1111	七飯町本町568-8	七飯町教育委員会	0138-66-2066
上川	096-0023	名寄市西13条南4丁目	名寄市中央公民館	0165-42-2218
網走	093-0051	網走市北2条西3丁目	網走市教育委員会社会教育課	0152-43-3704
釧根	085-0018	釧路市錦町2丁目4番地	釧路市教育委員会生涯学習課	0154-31-4579

## 平成23年度 北海道公民館協会加盟市町村名

支部	市町村名	支部	市町村名
後志 4町3村	寿都町、ニセコ町、真狩村、泊村 留寿都村、余市町、倶知安町	上川 4市16町 2村	旭川市、士別市、名寄市、富良野市 東神楽町、上富良野町、美瑛町 中富良野町、占冠村、南富良野町 東川町、鷹栖町、愛別町、上川町 当麻町、比布町、和寒町、劍淵町 下川町、美深町、中川町 音威子府村
渡島檜山 5町	知内町、七飯町 鹿部町、森町、八雲町		
胆振 1市4町	苦小牧市、豊浦町、白老町 壯瞥町、安平町		
釧路 根室 2市10町 1村	釧路市、根室市、釧路町、白糠町 浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村 厚岸町、別海町、標津町、羅臼町 中標津町		※支部はないが直接加盟している市町村 中札内村 札幌市、千歳市、恵庭市 栗山町、奈井江町、苦前町 浦幌町、利尻富士町、新ひだか町
網走 3市4町	網走市、北見市、紋別市、遠軽町 斜里町、訓子府町、置戸町		※加盟市町村数69市町村（13市49町7村）7月末現在

## ◆北海道公民館協会所在地

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目

北海道立生涯学習推進センター（通称：かでる2・7）9階

TEL・FAX 011-271-2825 VOIPTEL 050-3338-4370

dou-kouminkan@crocus.ocn.ne.jp

## ☆事務局紹介

事務局長 遠藤 和章（富良野市教委教育部長）

事務局員 成田 みえ（公民館協会常勤）

## ◆社団法人全国公民館連合会所在地

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-16-2 飯島ビル3階

TEL 03-3501-9666 FAX 03-3501-3481

# 公民館 総合補償制度の ご案内

平成23年度

平成23年5月1日～平成24年5月1日

Kominkan



職員災害補償制度 改定  
「補償額改定」・「E型新設」  
中面を必ずご確認ください。

参加人数や行事回数にかかわりなく、掛金は定額、加入手続きは年1回！



社団法人 全国公民館連合会